

Oome News Letter

自家消費型太陽光の拡大によりパネル出荷量拡大！

2014年度以降から減少していましたが、2018年度でついに反転！

皆さんこんにちは！大目商店です。本日は5月24日に一般社団法人太陽光発電協会より発表された太陽光パネルの2018年第4四半期及び2018年度全体の出荷量についてご紹介させていただきます。

* 住宅・非住宅ともに太陽光は増加 *

2018年度第4四半期(2019年1月～3月)に日本での太陽電池出荷量と、日本企業での太陽電池出荷量について、パネルの種類や性能および用途別などに出荷量をまとめ、これを年度通期分と対比を行ったものとなります。なお、調査対象企業は、国内に拠点のある内外全35社に調査協力の依頼を行い、30社から回答を得たものです。

モジュールの用途別国内出荷量

用途	出力合計 (kW)	前年同期比 (%)
住宅	277,394	101%
非住宅	発電事業 *	82%
	一般事業 **	145%
	非住宅合計	106%
その他 ***	132	37%
合計	1,441,239	105%

* 売電を目的とした500kW以上の出力の発電装置

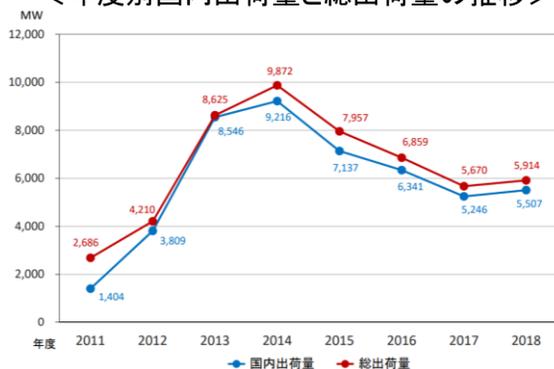
** オフィス、工場、学校、病院、役所、公共施設等 (500kW未満の地上設置を含む)

*** 電卓、時計、計算機、街灯、灯台、船舶用機器等の電力応用商品

モジュールの国内出荷量は1,441MWで、前年同期比105%となり、これを用途別で見ると住宅用途は277MW(前年同期比101%)と前年並みでしたが、全体の8割を占める非住宅が1,164MW(前年同期比106%)と、前年同期を大幅に上回りました。

なお非住宅用途の内訳は、一般事業用途597MW(前年同期比145%)、発電事業用途567MW(前年同期比82%)。

< 年度別国内出荷量と総出荷量の推移 >



総出荷量と国内出荷量は2017年度を底に反転！

日本での2018年度の太陽電池モジュール総出荷量は、5,914MW(前年度比104%)となり、国内総出荷量は、5,507MW(前年度比105%)となりました。

この結果、総出荷量と国内出荷量は、ともに2014年度以降は減少傾向でしたが、2017年度を底に反転し、2018年度は前年に比べ増加する結果となっています。

* 自家消費型太陽光発電の台頭 *

今回の発表では、全体出荷量を引き上げた要因が売電目的ではなく、「一般事業」、つまり、工場やオフィスなどに導入している「自家消費型太陽光」でした。2019年は売電単価14円となっており、法人企業様によっては、電気料金単価の方が高くなっているケースがございます。電気料金単価は今後さらに上昇していく見通しであり、太陽光発電は、「自家消費した方が経済効果が大きくなる」ことが見込まれます。大目商店では、自家消費型太陽光発電に関するご相談を承っております。ぜひ一度ご相談ください！

株式会社大目商店

ご相談

各種申請

お見積り

無料

〒720-0843

広島県福山市赤坂町赤坂1389-1

TEL : 084-951-2334

FAX : 084-952-2038